

1. はじめに

時間の流れはとても早く、約5ヶ月半の派遣留学も最終月となりました。冬学期の最後まで滞在中でできなかったことは残念ですが、帰国前に期末試験を受けた科目は単位の修得ができると思います。今月の月例報告書では、主に本派遣留学の総括をします。

2. RHIT の履修上のトピックと派遣留学で得られたもの

2.1. 科目履修 Drop と Add

今月上旬、学期の第8週目に Drop の最終週であるという内容のメールが送られて来ました。RHIT の科目履修方法には、Drop と Add というシステムがあります。そのため、RHIT では前学期の終わってから新学期の授業開始後5日目まで履修科目を変更することができます。学生は1週目に興味のある科目全ての授業に参加し、履修を継続するか、または Drop して他の科目を Add するかを決めることが可能です。一般的な学生は1学期に4科目16単位から5科目20単位程度の科目を履修します。履修科目に上限はありませんが、学生一人ずつアドバイザーと面談して科目を履修します。また、18単位以上の科目を履修する場合、追加の授業料支払う必要があります。Add の期間は新学期の授業開始後5日目までであり、学生は学期の8週目まで Drop を行うことができます。Drop を行うとそれまで履修を行っていたその科目の成績が無効となり単位を修得することはできませんが、GPA の評価対象外になります。そのため、学生は単位修得が困難であると判断した科目を GPA の評価対象から外し、GPA が下がるのを防ぐことができます。1月の月例報告書で報告したように、アメリカの履歴書には GPA の記入欄があり、企業側は学生の GPA を一つの判断材料としていることがわかります。そのため、学生はこの Drop と Add のシステムを上手に利用しています。

2.2. 交換留学プログラムから得た結果と知見

2015年8月下旬から2016年2月上旬まで RHIT で過ごし、とても貴重な経験を積むことができました。交換留学プログラムから得られた英語力、専門知識、様々な国籍の友人関係、異文化理解の4項目について以下に示します。

<英語力>

英語力に関しては特に、英文を読む速度が向上しました。これは、毎日教科書を読み課題に取り組んでいたためと考えられます。その他に、リスニング力が向上しました。これは毎日英語で授業を受けていたことにより、英語で授業を聞くことが当然のように感じ始めたからであります。秋学期初めは授業中に使われる専門用語に苦労しましたが、これらの用語は授業中に繰り返し使われたため、冬学期は英語力不足が理由で授業を理解できないということはありませんでした。

<専門知識>

RHIT で多くの目的意識が高い学生と出会うことができたことは、私の勉強に取り組む姿勢を変えました。RHIT の学生は、皆が毎日熱心に課題や試験勉強に取り組んでいました。そのため、私自身も他の学生に負けないように毎日勉強に励みました。その結果、期待以上の専門知識を得ることができました。特に、冬学期はこれまでに KIT で履修したことがない科目を履修したため、基礎知識が全くない状態から学習を始めました。多くの困難がありましたが、その分多くの新しい発見もありました。RHIT には指導熱心で気さくな教授が多く、丁寧に分かりやすい授業を受けることができました。授業外でも分からない点があれば常に質問をすることができる等、質の高い学習環境で勉強に打ち込むことができました。

<様々な国籍の友人関係>

クラスメイト以外にも多くの友人を作ることができました。特に、ルームメイトとスイートメイトはとても親切で、英語の課題を手伝ってくれたり一緒に近くのスーパー等まで行ったりしました。そのため、生活面でも不自由することがありませんでした。その他に、私と同じように交換留学生として他国から来ている学生ともよく交流することができました。交換留学生の出身国はブラジル、スウェーデン、ドイツ、中国等です。また、交換留学生にはそれぞれバディと呼ばれる現地学生がサポート役としてつきました。私のバディは機械工学科のアメリカ人学生でした。彼はとても親切で、週末には買い物や食事に行きました。長期休みには彼の実家に泊まることができ、アメリカの一般家庭の様子を知ることができました。最後の日には空港まで送迎してもらうなど、彼のおかげで大過なくアメリカでの生活を楽しむことができました。アメリカで出会った多くの友人は私にとって貴重な財産であり、今後も連絡を取りあって行きたいと考えています。

<異文化理解>

留学前は、単に英語力の向上を期待していただけであったが、実際にはアメリカという異国の地で生活することにより得られた知識や考え方の方が大きな結果でした。アメリカでは食事、言語、習慣といった基本的な生活環境が日本とは全く異なります。そのような生活環境の中で5ヶ月半過ごしたことで、様々な文化の違いを理解することができました。特にアメリカは多くの人種が混在しており、RHITにおいても中国をはじめ様々な国からの留学生が勉学に励んでいます。そのため、日本のような単一文化があるわけではなく、多くの文化が複雑に入り混じっていることを感じることができました。また、サンクスギビングには日本では体験できない貴重な体験をすることができました。さらに、学期間の休みやクリスマス休暇にはアメリカ国内を旅行し、インディアナのようなアメリカの地方都市から世界経済の中心であるニューヨークといった都会まで訪れ、地域ごとの雰囲気の違いを肌で感じるすることができました。

3. おわりに

本派遣留学を無事に終えることができ貴重な経験を積むことができたのも、派遣留学支援教員、KIT留学支援室スタッフ、RHIT留学支援室スタッフ、RHITの教員、そして両親のサポートがあったからです。ここに感謝の意を示します。ありがとうございました。

以上で2月分の月例報告を終わります。